

おり、アンドロゲン投与3時間で<sup>32</sup>P取り込み率が高値を示した。

(4)非ヒストンタンパク質のリン酸化はアンドロゲン投与後3時間で上昇した。

結語：マウス顎下腺には核に存在するアンドロゲンレセプターによって活性化されるプロテインキナーゼが存在し、これらキナーゼはアンドロゲンレセプターによる遺伝子転写活性調節に関与しているものと推察された。

### 演題3. 仮封材残存象牙質に対するコンポジットレジンの接着について

○寺田林太郎, 久保田 稔

#### 岩手医科大学歯学部歯科保存学第一講座

緒言：著者らは、間接法による修復の際の仮封処置が、歯面の性状に及ぼす影響について検討を加え、その成果を第27回歯科理工学会ならびに1991年ADM総会で報告した。これまでの研究結果では、臨床的方法で仮封材を完全に除去することはできず、仮封材除去後に37%正磷酸水溶液で酸処理を施しても仮封材の影響が残存し、この傾向は特に象牙質面上において著名であることが明かとなった。そこで今回、象牙質に残存した仮封材が、各種レジンボンディングシステムの歯質接着性に及ぼす影響を剪断接着試験にて測定し評価した。

材料ならびに方法：仮封材は、ユージノール系の

ユージダイン、プロバック、非ユージノール系のノージノール、フリージノール、カルボキシレート系のハイボンドを使用した。コントロールとして、仮封材を塗布していない群を作製した。レジンボンディングシステムは、フォトボンド、ライナーボンド、Dライナーの3種を使用し、コンポジットレジンはシラックスプラスを使用した。被験歯は、0.02%チモール水溶液に保管されていたヒト抜去下顎大臼歯とし、樹脂包埋処理後象牙質を露出して使用した。1週間仮封処置を行った後、歯科用探針を用いて機械的に仮封材を除去しその面を被着面として剪断接着力をインストロン4204型を用い、クロスヘッドスピード0.5mm/minで測定した。

結果ならびに考察：フォトボンドをボンディング剤として使用した場合、プロバック仮封群のみにおいて残存仮封材の影響が認められ、統計学的に有意に剪断接着力は低下していた。ライナーボンドをボンディング剤として使用した場合、プロバック、ユージダイン、ハイボンド仮封群において剪断接着力が統計学的に有意に低下していた。Dライナーをボンディング剤として使用した場合、全ての仮封材使用群で剪断接着力が統計学的に有意に低下していた。これら仮封材の影響は、仮封材の種類と仮封材の構成成分に由来するものと推察された。しかしながら、レジンボンディングシステム違いにより仮封材の影響が異なっていたことから考えると、レジンボンディングシステムの酸処理剤、プライマー、ボンディング剤などの因子が複雑に絡み合っているものと推察された。